

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

調査の方法

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2009-04-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 横川, 公子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15021/00001436

3. 調査の方法

横川 公子

大村しげコレクションに関して実施した調査の方法について整理しておきたい。大村しげコレクションが、国立民族学博物館に収蔵されるまでの事情については、笹原亮二「所有物全品収集——民博所蔵大村しげコレクション収集の経緯と特徴——」（本書所収）に詳しいので参照されたい。それによってわかるように、ものは、概ね置かれていた場所毎にまとめられて、その場所を記したダンボールの箱に詰められて運び込まれた。民博に運び込まれた後のダンボール箱は、必ずしも部屋毎に整理されていたわけではないので、調査の過程で、どの部屋のどの部分に置かれたものが現れるのかについてもランダムな状況であった。そのために、全体像は、正確には、調査の最終段階まで明らかにならなかった。

調査ではまず、あらゆるものを、ゴミに見紛うものまで余すところなく観察し、個別にデータ化して、目録作りを行なった。

1 調査項目

ものについての調査項目は、以下の通りである。目録に記載した内容についても、適宜解説を加えた。

名称：商品名や方言を避けて、判別しうる一般名称を採用した。但し京都住まいの元の所有者の呼び名を参照できるものは、備考欄に記録した。

数量：ものの最小単位で個数を数え、それを数量とした。1ダースの鉛筆は数量12、使用中の色画用紙1束は数量24など。雑誌や新聞の切り抜きは、ひとまとまり毎に枚数を数えた。数詞は省略している。

部品：主要な調査対象であるものの本体に付随し、一体になったものを部品とした。箱の蓋や専用の包み紙、手紙（封書）についた封筒など。

用途・使用法：ものの機能を記録した。弁当箱は食器、貯金箱はお金を貯める、木箱は収納となる。しかし、本の機能は、一般的には「読む」「調べる」などであるが、物書きであった大村しげにとって自著は、「書く」ものとなる。こうした場合を考慮して、多様な検索に対応するために、考えられる主な機能を複数、記録した。

OCM：機能、用途・使用法に対応する OCM コード番号を付けた。OCM は、もともと文化要素を機能によって分類するためのものであり、ものを対象とした機能分類には必ずしも対応していないが、考えられる機能、用途・使用法のすべて

に OCM コード番号を 3 桁までのレベルで付けた。

使用年代：資料が使用された年代が正確にわかる場合はそれを記録した。わからない場合は、もの自体や付随する情報から判断して、大まかに戦前・戦中・戦後に分けた。

部屋名：ものが置かれていた部屋を示す。ダンボール箱に記された部屋毎の印の色名を用いた。1 階は、オモテ赤、ナカノマ紫、オクノマ黄、2 階は緑、地下室は橙、走り（水屋）は水、配置場所不明一黒である。

使用状況：使用中・未使用・使用済（使用してあるが現在は使っていない）に判別した。ものの使用状況の結果や使用痕なども記録した。

法量：縦・横・高さを mm 単位であらわした。

材質：木・竹・金属・紙・合成素材などに大まかに分けた。2 種類以上の素材が使われている場合は、それらのすべてを「木・紙」のように記録した。織物については、繊維名や織り組織の名がわかるものは、それを記録した。

重さ：使い勝手や着心地などの身体感と関わる衣類や道具などの場合に、重さをグラム単位で測定した。

製作方法：手作り・工業生産・手書き・印刷物などを判別した。

備考：ものから読みとることができる、上記以外のあらゆる情報を記録した。

2 整理と記録

ものは、ホコリやゴミなどを掃除し、調査した順番に 5 桁の収集番号が付けられた。衣類や紙類などの畳み皺や、元の暮らしにおける収納の仕方によって曲がったり汚れたりしたものは、ものの履歴や生活を反映したものとして、そのまま保存した。多くのものが包装紙や新聞紙に包まれ、転用した紙箱や紙袋やナイロン袋に入れられていた。それらも収納の仕方を示すものとして、元通りにして保存した。大きめの箱やダンボール箱を転用して、多くの種類のもものがまとめて入れられていた場合、それらの収納用具にも収集番号を付け、ものがその中に入っていたことを明記した。但し、こうした整理方法は、4 年近くに及んだ調査期間の間に、多少の変化が生じ、そのためコレクションの中には、元の所有者が使っていたものであるにもかかわらず、収集番号のつけられていない紙箱などが、いくらか含まれる。

目録作りでは、I の項目のすべてをエクセル・ソフトによって打ち込み、データ化した。また、すべてのものをデジタルカメラで撮影した。写真は、収集番号を書いた札と、大きさを確認するためのスケールとを一緒に並べて撮影された。ものの所持や保持の仕方を記録する必要から、収納の仕方も合わせて撮影した。部品は勿論、包み紙や箱、ナイロン袋などの収納用品を加えたものや角度を変えたものなど、1 点につ

き複数枚撮影されたものもある。但し、出版記念会の出席者としてまとめられていた名刺や、年ごとにまとめられていた年賀状のように、同一サイズの同一機能のものについては、報道関係者・出版社・ひととき会会員などのように、内容上のグループ毎にひとまとめにして撮影した。ひとまとめにすることが出来ない場合には、名刺を1点毎に記録した場合もある。

なお目録と写真の一部は、本稿とは別に付属 CD-ROM を本書に付したので、参照されたい。